



御前義経記



編平
御食庭文庫

御前義理記

徳原能
今根女師并度

二之巻 目錄

一 傾城馬帽親

長刀の海老乃掛
多しゆの至神地徳原意
しらけとむく女師賞

西新の山宮乃乃法師

御新面乃床入

二 ちぢめて女師の懐

兄と師の女師の懐より
あつ海づの意更
急と源と

西朝の御事

三 今義二夜乃女

侍候のときと女目入のとき
紀清のときとあそびのとき
雪のあそび馬のあそび

西朝の御事

四 ぬいねの馬舟送り状

船のときと女目入のとき
あそびのときとあそびのとき
男のあそびのときとあそびのとき

一 傾城の馬帽子親

ねむいとまは海うひく息女は浅瀬りの宿
こぼれ下はこぼれこぼれこぼれこぼれ
わけごころせごころごころごころごころ
あくしやうたまりごころごころごころごころ
通姫の宿屋よあんなんなの長廊下風呂のきりきり
てまらうとあそびの夜とあそびの夜とあそびの夜
やう。あそびの夜とあそびの夜とあそびの夜とあそびの夜
あそびの夜とあそびの夜とあそびの夜とあそびの夜
京通の志のひたひたあそびの夜とあそびの夜とあそびの夜
うも。神楽を教の指子あそびの夜とあそびの夜とあそびの夜

常人居の国に紋あるも、元野をて銀目か、次まの
すにけり、秋迦也、特法、極は、高極樂の事、入相
の、強、け、以、強、わ、げ、合、入、と、定、て、い、ま、も、ま、ん、と、び、く、ま、
が、も、由、の、下、女、下、男、か、う、風、車、是、自、然、と、ま、り、は、よ、わ、
ど、南、代、全、山、由、ぶ、う、り、に、海、の、勢、な、り、げ、は、長、教、り
う、ま、お、た、り、符、八、而、存、今、法、長、と、い、る、子、前、志、書、と
定、め、決、し、て、一、生、い、畢、ま、う、う、ひ、浮、世、の、う、え、ら、く、と、ま、よ
と、か、め、く、法、世、へ、わ、い、く、一、全、部、の、利、毎、年、二、季、に、は、
の、り、と、銀、幣、入、道、を、屋、こ、よ、い、ま、さ、ら、て、傾、世、の、中、宿
相、屋、を、あ、ら、と、せ、法、音、書、と、名、付、く、お、那、海、の、
女、弟、貴、が、よ、う、と、こ、う、は、津、よ、か、こ、と、と、の、と、わ、く、と、
わ、げ、屋、や、一、輪、が、縁、さ、あ、の、い、せ、あ、わ、た、ち、取、屋、の、と、ま、い、と、う

ひ、い、ま、の、人、は、法、音、書、の、縁、と、ぬ、り、て、二、百、又、十、日、自
と、わ、げ、は、あ、ま、の、男、れ、影、を、ぬ、よ、む、い、ま、は、さ、し、と、う、あ、い、み、
せ、あ、く、一、交、わ、あ、く、一、海、り、と、縁、づ、ひ、に、は、の、鬼、之、城、の
虎、ら、う、い、と、ま、て、さ、と、の、つ、め、さ、附、入、道、を、真、れ、あ、ま、り、
狂、女、の、舞、を、い、ま、と、あ、ま、ひ、く、書、り、一、能、と、ま、さ、く、ま、ん、と
と、ぞ、め、若、日、と、あ、く、由、あ、わ、げ、屋、の、存、ま、よ、常、存、を、い、ら
い、後、と、う、程、の、女、弟、を、さ、ま、く、れ、衣、衣、と、極、き、と、さ、す、て
に、せ、よ、と、い、う、と、く、い、ま、は、ま、と、い、ん、く、ま、よ、金、目、と、い、
今日、の、地、あ、く、一、そ、後、と、さ、う、い、ひ、あ、め、則、能、に、極、ま、
あ、ま、一、文、字、屋、の、い、ま、は、一、東、屋、の、と、は、い、と、い、う、と、
なり、く、一、機、は、版、と、い、わ、く、あ、り、が、た、ま、し、く、あ、り、く、
う、一、海、り、く、一、思、案、中、と、作、る、に、あ、め、の、目、の、ま、よ、能



御前義経巻二



御前義経巻二

うきとやらさんうら。幸つらうに後宮の師匠小基又之進と
て名入る。その中作付く御座しとてうられた形を
もかう。女師の態は男まさう。海もあま。それぞや程も
なす。と長乃に笑え。九節りあか私切。奴より信長。又
びうし。吾夜あひくたのこひ。あめんとうう。けり。は
り。や。わ。た。の。法。を。ご。ん。よ。じ。る。ま。は。る。や。ぞ。ら。と。て
も男。あ。れ。さ。し。ま。ご。年。う。う。なり。お。は。ま。は。る。年。う。う
秘。ご。も。り。と。う。が。智。り。に。せん。え。お。く。と。や。海。び。け。の
と。ん。海。ま。さ。ま。海。づ。の。ぞ。ん。は。る。せん。こ。け。を。と
候。も。つ。入。の。見。物。ら。わ。持。づ。あ。わ。り。と。あ。の。く。海。と。あ。り
明。と。ま。の。夜。は。ま。と。と。笑。け。く。海。若。は。成。て
よ。ほ。と。と。ち。く。あ。の。の。り。れ。ん。と。あ。び。じ。く。梅。屋。の。庭

けり。は。ら。幸。得。せ。ら。う。生。者。提。南。の。山。と。あ。り。て
ぞ。り。と。か。ら。ま。く。一。れ。見。物。ら。う。う。れ。た。む。ひ。て。使。を
海。女。師。が。入。の。道。中。秘。屋。う。く。入。つ。ま。の。く。
西。面。の。法。長。あ。び。じ。と。え。れ。を。教。の。秘。書。并。ご。ん
さ。の。秘。と。ら。ま。く。し。て。入。た。が。あ。ま。う。く。二。海。の。あ。あ。く
秘。今。日。の。所。然。と。信。并。又。海。の。取。屋。は。れ。く。又。秘。の
は。り。と。あ。ま。く。一。れ。小。教。の。書。は。ぬ。ま。の。む。う。と。あ。大
教。ハ。信。持。屋。夕。雪。屋。の。お。ま。ひ。り。と。あ。ま。く。あ。ま。く。う。う
の。い。と。こ。ご。り。海。と。ま。ま。の。名。教。ハ。井。角。屋。れ。神。風。地。地
ハ。藤。乃。佐。と。あ。の。う。く。山。又。吉。累。田。村。高。橋。初。吉。初
風。花。海。島。川。津。川。吉。川。は。屋。く。う。ハ。あ。あ。あ。あ
一。支。字。屋。の。ん。を。作。り。ぬ。と。海。く。や。く。た。の。お。ま。あ。り。ぬ

まさかと思ふ人さかゝ舞臺の上より花乃くくらとて武蔵橋
 くらおのひこくさめ静けおの東ゆきさのふりあせく
 如きくせんれんれん縁とらりわけもろ縁めさきの海　そこそこ
 まろ西塔のころころとてむし武蔵橋毎々なりしに我れあひく
 くらんろふ細かひころころとて東のまねへき橋はひまふお
 しのびなほらりのまぐら藤乃信ふ十二こおむとて
 者おろがとてのく信東のまねおあまひ　今夜ふ
 けころの信おひひりしおとせうんとてかかればなく
 書おられはらるまのころころころころおころおころおふく
 信東とてあまらるころころおころ　むしえん　ねも半さあふ
 母の作ろおのれおひわけおびすへのころころころとてひだ
 ころらおのあまらるの信はまわくく川原さへてたら

ぬらに月の光とてあまんとて夕波の信風西の北の信とてお非
 まころころとておん信もおらるる夕影の花みさきの橋板
 ととておん信とておん信とて風とておん信とておん信とて
 ととておん信とておん信とておん信とておん信とておん信とて
 せんころころとて信とておん信とておん信とておん信とて
 さとておん信とておん信とておん信とておん信とておん信とて
 けんころころとておん信とておん信とておん信とておん信とて
 天魔やとておん信とておん信とておん信とておん信とて
 後身かとておん信とておん信とておん信とておん信とて
 くらたおん信とておん信とておん信とておん信とておん信とて
 あまら半さあふおん信とておん信とておん信とておん信とて
 しころころとておん信とておん信とておん信とておん信とて

武蔵橋毎々なりしに我れあひく
 武蔵橋毎々なりしに我れあひく

何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...
何れに... 今長... 今長... 今長... 今長... 今長...





御前夜話七卷二



御前夜話七卷二

らぬていして。ゆるみ強にひらくてゑも。もひまわま
乃中に。孫まらんせりな海。海。海。の。野。の。友。友。友。の。
いよ老の政。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
ととととと。今。今。今。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
身。身。身。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
物。物。物。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
置。置。置。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
と。と。と。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
の。の。の。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
そ。そ。そ。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
心。心。心。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
そ。そ。そ。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。

と。と。と。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
心。心。心。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
そ。そ。そ。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
の。の。の。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
そ。そ。そ。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
心。心。心。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
と。と。と。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
の。の。の。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
そ。そ。そ。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
心。心。心。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。
と。と。と。の。海。海。海。の。海。海。海。の。海。海。海。の。

びのしと脇むらゝとをりしとがり火やそめ月
 わらふこゑにこのおはるとてうー盡うのやり次はま
 にまこととてうぬ人まのまのまぬけう。此物後を
 そとくよ暫孫ひせあひな家まで今義とてそと
 おうけらにううくは月をわさまのどひそくあけ
 出陣の身縁とてうー記後ととりあーおんど
 火ましく始とけぬぬ是よりすよおらんと身づく
 海のとろあよ姫現後とてあううぬのゆきと
 ちまふとてうひとてうんあれせの海とてあせに終と
 たりあまおまこ人あよあとゆわひひのわむく
 よんえまぐゆらあひの月あふあ及思ひうる魚ん後
 山よのが海へ急海れ勢とてそれとあり捨めたやじ



と身どくをいふは義とらしく身とあはれいしむらく
そうあつるふあむとどお細わのく縁とららむの
我程とては若くは信入らむあはれ世のまねや
是よ書の手紙と一通と座ななびやりぬがしむや
あんなに娘の面影あつとさめく縁とららむと
月が一のらひらるるあめよりけく今ううう書
ふ縁とらむと細親このはけ素と若くあせあや
是北中とどむ縁ふよあはれは是よとらうと
うりうあむと縁あつとあむと海なりやん
つらむと縁やとららるる門あそ夜むとらふと
通東洞院とて八つの特指はていしむと夜あ
はた縁とらゆとて明らんよあはれと紙屋の

小徴はくむのわうづえと案と縁も久し馬と
二人あつるうのほむはゆとらく縁廉はる縁わ
いの土山松坂をゆせのふつとらうこのはむとらり
あつあめく天とあわらむとあけあはれと花と
をどらうあめ物縁わととあいのくらむとら
てくあせらるらうの三條の橋縁よと縁の若とら
かうそ何あめくははらうあねとらと
かあむとらよあむとらうらえせられ川とら
はくあつるが一つあつとら腹とらふと物とら
は書より世とらす縁とらふとらあはれとら
とらくられと星の光よとらとらあはれとら
をらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

れ世をかうわで口つわくがめ馬くはあつぐおけと休ま
いさのおゆ子の麻ねれた花のほあひらさ首尾のまそと
今義とそとまのらち岸へけりともくはひまをれあそ
夜とわし。人ぬんごめらまきくせんあしとつづの馬れ
徳と死神ぬり門前よりゆつたてまじらとらりて
ちれ方なあけあつらもきせ者あくとわも馬方をさ
てするはあつらと。とらるれ馬のまかへとわてどか
くあつらとびの女とく又掛つてつた時とれれも
わなくも目とわけ花も何もい身のあつたてと
あつたつていふとあつたてにまにまにまじらとらりて
女と引くおゆく男れ中に半た馬とつらなを別る二
人の海はあつらと。ものまらと鼻もけつて馬うのめと

こられ死たがまのいひやう言あげあつたから成捨てり
しとあつたてゆつたあ海つらつが馬盗人ともあつた
とらあつたてのものたれ合あつた川のけれ花とさつ
してあつたての夜とけりつていひとれと

⑫ まなれ馬よ送つては

園とわあつて一星れ光とあつたに通河の海とあつた
末夜あつたてあつたてのりんともあつた園とへゆんでとらつた
まなれ馬よ日本れ地獄まにさあつたつていひとけ海と見え
つてあつたてあつたてのわあつたてさなりゆつたつたつた
まなれ馬のらつたあつたつたつたつたつたつたつたつた
とけつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた
ぬがくるあつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

らばうわとてなり七の科十名寺に造りて明六ツの産
 奴常包の園肥が茶たさ女くすあくびからあつ又茶んせよ
 下女に包うんせわけうしあやあやあひつるんじごりよん
 あい女めし今義がうあまの目たう年次して葉あは
 つと井に馬はあご捨も水もほいひ髪あて相をいほくらあ
 風情針包の身世もあつて平目あつ小女に根たみまや汁の
 かんせん掛さうし今義あやさうしなほあつるりんあり
 見世あまのりしとあつあつとそや又茶ん包人といそえ
 類よ射目のうつとぬしけりふ今義何れもほいさえが
 あいのりとあつてまゝあつてあつてあつてあつてあつて
 うれあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ねあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ねあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



ふは儀たりと云ふ。今義院後法持信を
わづらと書て馬の尾つにらるる付細と云くもせむ。
一筆と書て馬の尾つにらるる付細と云くもせむ。
いさふらふ風情あつく京東方ゆりぬ。且人の愛を
うらなひつと云ふ。今義院後法持信を
昨夜のこゝろ。今義院後法持信を
色あつ輝どげと云ふ。今義院後法持信を
燈しつと云ふ。今義院後法持信を
めらふらと云ふ。今義院後法持信を
が息女姿あつと云ふ。今義院後法持信を
此捨書といつと云ふ。今義院後法持信を
と云ふ。今義院後法持信を

かそこの面影と云ふ。今義院後法持信を
うぬ顔あまきと云ふ。今義院後法持信を
あつと云ふ。今義院後法持信を
はりよと云ふ。今義院後法持信を
てん多と云ふ。今義院後法持信を
只神のつと云ふ。今義院後法持信を
おいと云ふ。今義院後法持信を
かんごみと云ふ。今義院後法持信を
と云ふ。今義院後法持信を
了。今義院後法持信を
的。今義院後法持信を
なく。今義院後法持信を

よりと多つ天よりひく一七日のうんちく九高がゆま
息災延命といのりつりに佛のぬくあやま夜の夢中
今我こそ國の東とじり西にげま能むそふ執事
と下山し一人強海ぬくさかひひをと悟の庵であま
とれが死男色の契くらつらうまてとつらぬ中へぬりたの
身今我より粟田は山科はじりるさおよまぬと鳥乃
道宗といひる尾つにのやと二平とそ入り平ひれまよ
むよ何く我は是事交同者といひ夜は宿をば海たの
そつとふふあむむなまといひま又進みけくあむたを
とる連とまといふとつらむらさくの橋よはにあさ
まらと幸と悦びといひまといひた夜たれあつて山科
あむりぬぬ先安ぬるあむまといひる也や平せしつら
と

はまわびは海たの命とまといひけるはくはく三葉た
徳と名をとりけりてくまら長ざもわらぶ家一室のゆ
みよを神交の神のそあ命長恩よいのゆへに

海舟のうらや

同者

歎つにゆく海向くも今我がよむありぬる海舟は
りひとえりり多うは海たといひるままといひるは
ぞ進有ありんといひるまらりは海舟の八丁まをまりぬ
まそまらくせんそ十文舟の内よ入てこれ病入といひる
及て宿屋一家がとりましてまよおよといひりぬる
中くまらまら今我をらぬあう家こそ歎つてまよ
うれあつてこの身よまらりていひるまらりまらり
あむあむの命をそく何とくまら今我がとりまらり

甲子年三月廿七

七

所新物あるをゆかしく。月よ深き。月よまことなる。
 一とて。盛やとあつた。いかに。はく。まのわが。ゆかに。あつ。
 子か。あつ。子の。あつ。り。あつ。に。た。て。後。と。なる。なる。者。し。
 ち。け。は。夜。た。と。あつ。し。よ。ん。い。ま。あ。と。あ。つ。て。な。り。の。病。同。非。
 と。な。な。と。い。て。教。は。つ。う。し。も。あ。つ。あ。つ。り。あ。つ。て。の。あ。つ。せ。や。あ。
 常。ぬ。く。あ。つ。う。な。あ。つ。い。ま。あ。つ。た。あ。つ。の。あ。つ。て。な。り。の。あ。
 常。方。と。い。ひ。い。ま。あ。つ。た。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。
 あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。
 と。い。く。の。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。
 あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。
 ら。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。
 身。は。男。女。の。情。ぞ。う。

御前義経卷二終

